

『和佐谷神社。山上郷和佐谷村鎮座。稱和佐谷不動。白山九所小神之一社也。』と見える。
ワサトノニツキ わさとの日記 一冊。淺井政右著。中仙道を経て江戸へ往つた時の日記であるが、年紀は明らかでない。書名は『わざとの日記めきてわろけれど云々』と起筆したによる。

ワサビダニ 山葵谷 白山尾添口登路に在る。多く山葵を産するによつて名づける。元祿の圖には懺悔谷と記す。澗を渡つて少しく上るを山葵坂と名づけ、山葵坂から南にある峻坂を美女岩坂といふ。

ワシガダケ 鷲ヶ嶽 鳳至郡谷内に在る山で、鷲嶽八幡宮が鎮座する。能登誌に『鷲ヶ嶽といふは海邊の磯山なれど、甚岨しき山なり。往古此の地に鷲の惡鳥住みたりしを、鳳至比古神退治し給ふに依て此名ありと、鷲嶽八幡の縁起等に記せり。』とある。

ワシソウガダケ 鷲走ヶ岳 ワシツ 能美郡東二口の部落から西方に當る山。高さ一〇九七米。地質第三紀層。

ワジマ 輪島 鳳至郡の首邑で、名物輪島塗の産地として古來名を知られてゐる。藩政時代には鳳至町村と河井町村とを輪島と惣稱し、外に輪島崎村と輪島海士との四部落であつたのが、互に膨脹密邇して今の輪島町を成して居る。能登名跡志に『鳳至町は大屋の庄にて、川の西に在りて家數三百軒餘あり。河井町は河原田の郷に在り、川の東なり。家五百軒餘あり。間に長四十八間の橋ありて町の

端とす。』と記する。その内河合町は今本町・大町(もと笈町)・河端出・觀音町・田町・中田町・新田町・馬場出・馬場崎・長山・濱浦・鳳至町は稻荷町・上町・仲町・河原町・横町・濱町・下町・新町・石浦町・今町・山崎出(輪島崎町飛地)、輪島崎町は寺新町・宮町・中町等に小分して居る。併しこれ等は俗稱で、公には唯鳳至町に稻荷町・上町・下町・鳳至町・石浦町・堂金田の區分がある許りである。

ワジマアマ 輪島海士 鳳至郡大屋庄に屬する部落。この部落は耕田を有せぬから、藩政時代に村とも町とも言はず、單に輪島海士と稱して居た。今は輪島に屬する。

ワジマガハ 輪島川 鳳至郡木原岳に源を發し、西流市坂を經、北流して渡合に至る時、松尾谷・青谷の溪流を合はせ、熊野を過ぎ、桐谷に至つて東方より來る猿谷、及び長尾谷より來る一溪流を容れ、川尻に至つて東方より神田谷、西方より北谷の水を受け、山岸より西北に流れて輪島に至る。この間上流では熊野川、下流では川尻川といひ、惣稱して河原田川ともいふ。次いで輪島の南端に於いて鳳至川と會し、その下流は輪島川となつて海に注ぐ。流程凡べて二五料。

ワジマタミ 輪島組 前田利家が慶長三年六月廿六日山地子錢打増之所々とある印書に、穴水・南北三井・諸橋五わり増、町野上中下・輪島組三わり増とあつて、穴水等の郷名と並べて輪島組を載せるから、慶長の頃には一郷の如くなつてゐたのであらうと、能登志徴は説いてゐる。

ワジマコウ 輪島港 鳳至郡輪島の海面で、輪島崎の山嘴と、更にその直下なる龍ヶ崎と

稱する長さ一五〇米許の礁脈によつて、西寄りの風を避けることを得たが、一旦北又は東北の時化に會ふ時は、港内に於いてすら船舶の難破を見ることがあつた。この港を古來親の湊ともいうたのは、古への大屋庄に屬するから大屋湊が訛つたのであらう。大正十一年以來築港の工事を起し、略完成してゐる。

ワジマザキ 輪島崎 鳳至郡輪島の西北端、天神山丘陵の海中に斗出するものを輪島崎といひ、その麓の部落を大屋庄輪島崎村といふたが、今は輪島の一部を成してゐる。能登名跡志に、『輪島崎は海士町の未少し放れてあり。家數五十軒餘あり。誠に此の浦の崎にて、船の淵ありて、高の山に夏中燈明臺あり。船問屋沖崎・刀福・あぶぎや坪とて有て、夏中數百艘の船不絶、繁昌也。』と記する。

ワジマザキジヤ 輪島前神社 鳳至郡輪島のうち輪島崎に鎮座する。能登名跡志に、『氏神天満宮なり。神主は湊氏なり。此宮に日本始めて鑄造所の明鏡あり。祭禮毎歲九月九日也。一説は、御神体少彦名命の由。』又式内等舊社記に『輪島崎神社。輪島崎村鎮座。稱輪島崎天神。』とある。

ワジマソウメン 輪島索懸 輪島産の索懸は古來名産とせられて、幕府への進獻にも用ひられた。三州名物往來に『輪島朱椀、同所之白毛索懸。』狂歌日本風土記に、『白糸の如製しつゝ、里々々はかせにもかへる輪島索懸、梅好。』とあり、白髮素懸の外に上中下の索懸もあつた。

ワジマヌリ 輪島塗 鳳至郡輪島で製造する漆器。當初根來寺の僧がその技を傳へたといふが、時代は明らかでない。但し室町末期

以前に初つたことは確實である。従業者の數は、藩政初期に尙十指に滿たなかつたが、寛文中郊外小峰山から地粉と稱する土を得、之を塗料の下地に用ふるに及び、初めて他の追隨を許さぬ堅牢無比の製品を得て次第に盛況を呈した。次いで享保中三笠屋伊平が松前よりの歸途、彫刻に秀でたる六部を伴ひ來り、採漆した硯箱に技を施さしめたが、大工五郎兵衛は之に倣ひ、鑿を用ひて圖様を彫刻する法を案出し、明和の頃館順助は更にその刻痕に漆液を沈め、金箔を壓貼する法を創めた。沈金彫といふ者是である。爾後文政には會津の時繪師安吉から描金の法を習ひ、益聲價を發揮して名産となるに至つた。

ワジマハツケイ 輪島八景 鳳至郡輪島附近の景勝を數へたもので、七島春帆・袖濱落雁・伊呂波橋青嵐・二瀬川秋月・靈泉寺晚鐘・鶴巢暮雪の外、或は鳳來山早櫻・輪島崎歸帆を選び、或は重藏神社夜雨・瓦田杜鵑ともする。

ワジママツリ 輪島祭 鳳至郡輪島町の秋季の總祭で、今八月廿三四日が重藏神社、廿四五日が住吉神社、廿五六日が輪島前神社の順序に行はれる。神輿の渡御には切籠又は萬燈と稱する大行燈が供奉したりする。その上廿四日から三十日まで住吉神社を中心とした一帯街路に、御齋市と稱する大市が立つ。『輪島のおさいを二度見たら(馬鹿)か、たゞの一度も見ぬだらか。』といふ俗語がある。

ワシヨネビヨウシダイキ 和書年表次第 一冊。古今書籍の標題と卷數とを擧げ、その書に記載せられてゐる内容の時代を附記したもの。元祿十三年金澤書林三箇屋五郎兵衛の編纂と見られる。

以上は、輪島に関する地誌的・歴史的事項を概観したものである。以下は、輪島に関する民俗・文化的事項を概観したものである。輪島は、古來から海産物の産地として知られてゐる。特に、輪島塗は、その美観と堅牢さから、国内外に知られてゐる。また、輪島は、多くの神社・寺廟を擁する。その中でも、輪島崎神社は、その歴史と景勝から、多くの参詣者を集めてゐる。以上、輪島に関する地誌・歴史・民俗・文化の概観を終る。